



熊谷市 記者クラブ取材情報

令和2年4月27日発表
担当課:政策調査課

タイトル

株式会社LIXILと連携した暑さ対策 ～ 外付け日よけ実証実験結果を公表 ～
室内熱中症から家族を守ろう

1. 日時

令和 年 月 日 () 時 分

2. 場所

3. 事業概要

【目的】

外付け日よけ「スタイルシェード」の実証実験結果を公表し、今後の室内熱中症予防の啓発活動等に生かします。

【実験対象】 ①市民モニター24世帯（戸建て）②市内無人住宅（戸建て）

【実験期間】 ①令和元年7～9月 ②令和元年8月26日、9月17日、9月20日

【実験方法】 外付け日よけを設置し、暑さ指数（WBGT値）の計測、窓付近温度&室内温度の計測、エアコン消費電力の測定、アンケートの実施（①のみ）

【実験結果】 1. 午前中から室内熱中症の危険性があることがわかりました。
2. 外付け日よけの設置により、暑さ指数（WBGT値）の嚴重警戒ラインである28℃以上の状況を25%削減することができました。
3. 外付け日よけとエアコンを併用することで、室温上昇を抑え温度が安定します。

4. 特徴やPRポイント

この実証実験は平成29年に熊谷市と株式会社LIXILで立ち上げた室内熱中症対策プロジェクト「クールdeピースPROJECT」の一環として行ったものです。新型コロナウイルスの影響で、室内で過ごす時間が増える見込みであり、今後も室内熱中症の発生リスクが高まる可能性があります。熊谷市と株式会社LIXILはこの実証実験結果を基に、室内熱中症予防の啓発活動を更に推進していきます。

5. その他

本件に関するお問合せ先

株式会社LIXIL (<http://www.lixil.co.jp/>) 本社：東京都江東区大島2-1-1

報道関係の方から：広報 塚、岡本 MP. 070-5459-3195/TEL. 03-6706-7020

一般の方から：お客様相談センター TEL. 0120-126-001

※ 資料の有無(有 ・ 無)

担当者 市長公室政策調査課 杉本

連絡先 048-524-1111 (内線369)

報道関係各位

2020年4月27日

【室内熱中症予防啓発活動】

埼玉県熊谷市×LIXIL「外付日よけ「スタイルシェード」実証実験」の結果を公表

“窓の外で日射を遮る”が大切であることを改めて実証

- ・30℃を超える暑い日の午前中は“暑さ指数”の「**嚴重警戒**」レベルを超えることもある
- ・窓とカーテンの間にこもる熱がエアコンの運転に影響する

今まで、“熱中症”とは、暑い夏の日以外で運動をしているとかかるもの、という認識が一般的だったのではないのでしょうか。しかしながら、昨年11月に総務省消防庁から発表されたデータ^{※1}によると、“熱中症”で救急搬送された方(約71,000人)のうち、約4割にあたる方々が『住居(38.6%)』で発生しており、次いで『道路(15.6%)』、『屋外(12.5%)』と『住居』での発生が2位の『道路』と比べても2倍以上の発生件数で圧倒的に多いことがわかります。

※1：出典元：総務省消防庁令和元年11月報道発表資料より



外付日よけ「スタイルシェード」

LIXILでは“住まい”に携わる企業として、この問題に注目し2017年から「クールdeピースPROJECT」の活動を通じて“室内熱中症予防”の啓発活動を行っています。その中でも2018年に最高気温41.1℃(歴代1位)を記録し、また、“暑さ対策日本一”として積極的に室内熱中症予防活動を行っている埼玉県熊谷市とは、これまでも市民向けのセミナーなどを行ってききましたが、2019年の夏には、夏の日差しを窓の外で遮ることで、室内に熱を入れない「外付日よけ(スタイルシェード)」の効果について、有識者の方々と共に実証実験を行いました。

・「クールdeピースPROJECT」について <https://www.lixil.co.jp/minnadesmileecopj/thinkheat/cooldepeace/>

■埼玉県熊谷市 × LIXIL「外付日よけ「スタイルシェード」実証実験」の結果について

1. 午前中から室内熱中症の危険性がある
2. 「スタイルシェード」の設置により、暑さ指数(WBGT)^{※2}の**嚴重警戒**ラインである28℃以上の状況を25%削減することができた
3. スタイルシェードとエアコンを併用することで、室温上昇を抑え温度が安定する

実証実験対象：①熊谷市内のモニター協力24世帯(戸建て)、②熊谷市内の無人住宅(戸建て)1棟(2階の南に面した2部屋)

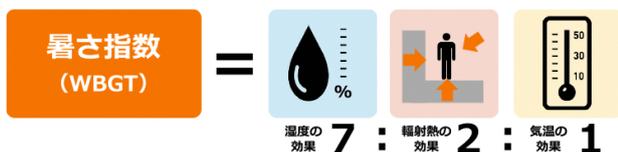
実施期間：調査①2019年7月～9月、②2019年8月26日、9月17日、9月20日

調査方法：①屋外、窓際、エアコン、部屋の中央に温度、湿度、暑さ指数、電力消費量を計測するセンサーを設置し計測

②2階の南に面したほぼ同じ広さの部屋で①と同様にセンサーを設置し計測

※2：「暑さ指数(WBGT)」とは

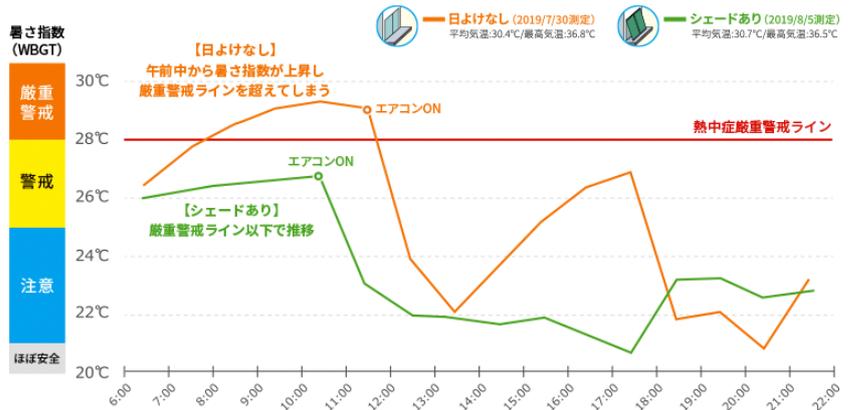
熱中症を引き起こす原因は「気温」だけではありません。「暑さ指数」は、湿度や輻射熱も含めて数値化された、いわば”熱中症を予防するための数値”です。暑さ指数28℃以上になると、熱中症のリスクが高まります。



危険	暑さ指数 31℃以上	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒	暑さ指数 28℃以上	外出時は炎天下を避け、 室内では室温の上昇に注意する。
警戒	暑さ指数 25℃以上	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休息を取り入れる。
注意	暑さ指数 25℃未満	一般に危険性は少ないが、激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

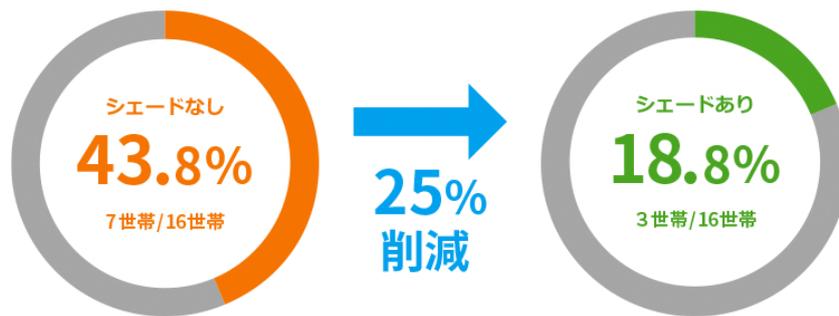
1. 午前中から室内熱中症の危険性がある

今回のモニター宅での実証実験の結果から、実際に居住する住まいにおいて、「日よけ」をしない場合、午前中から暑さ指数（WBGT 値）で「**嚴重警戒**」レベルとなる 28℃ を午前中から超える日もあり、非常に危険な状況になることがあります。



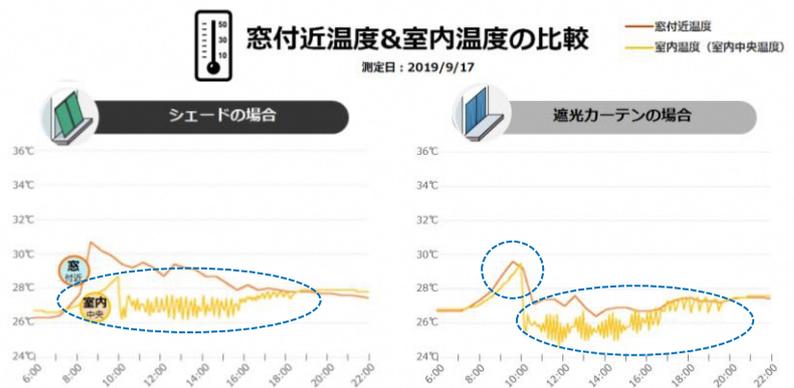
2. 「スタイルシェード」の設置により、暑さ指数（WBGT 値）の嚴重警戒ラインである 28℃以上の状況を 25%削減することができた

今回のモニター宅での実証実験の結果から、シェードなしの場合は暑さ指数（WBGT 値）が「**嚴重警戒**」レベル 28℃のモニター宅は全体の 43.8%でしたが、シェードを設置し測定を行った結果、シェードなしの場合より 25%下回る、18.8%という結果になりました。



3. スタイルシェードとエアコンを併用することで、室温上昇を抑え温度が安定する

今回の無人住宅での実証実験の結果から、「日よけ（スタイルシェード）」と「遮光カーテン」を比較した場合、ともに室内の温度上昇は抑えられるものの、室内の気温の変動に違いが見られ、「スタイルシェード」ありの場合、日中の温度変化が緩やかになり、より過ごしやすい環境になることがわかりました。

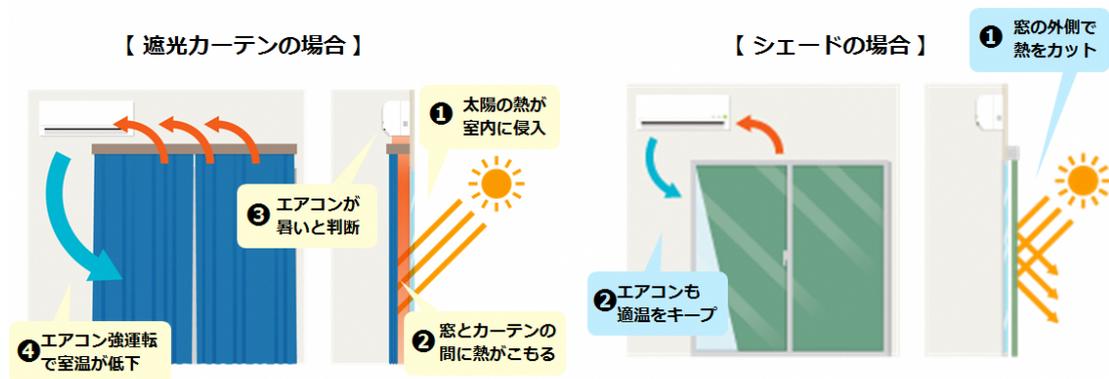


ワンポイント

今回の実証実験から、窓の外で日除けすることで、エアコンの消費電力を遮光カーテンと比べて約 30%削減することができるということも明らかになりましたが、東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻准教授の前 真之氏は、「高断熱な窓の場合、一度室内に入った熱が外へ逃げにくくなります。結果として、窓とカーテンとの間に熱がこもり、窓近くに設置したエアコンが暑いと判断して、強風運転をしてしまうことで、室

内温度の冷え過ぎの原因になってしまうのです。省エネの観点からも、熱は窓の外側でカットすることが望ましいといえます」と考察しています。

“遮光カーテン”の暑さ指数が低く、消費電力が高くなる理由



まとめ

前 真之氏（東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻准教授）

今の窓はペアガラスが当たり前で、さらに、断熱性能が高い Low-E ガラスも普通になってきています。それにより部屋に入った太陽の熱がなかなか外に抜けず、室内にこもりやすくなってしまいます。そのような状態で、カーテンで室内側を防いでも、1 回入った熱は抜けず、カーテンが過熱されてしまっているのです。とても暑くなる。太陽の熱は、室内でなく窓の外で防ぐことが大事。熱を室内に一切入れない、外側でちゃんと防ぐ工夫が最近の家ではより大事になっているのです。



三宅 康史氏（帝京大学医学部附属病院 高度救命救急センター長／帝京大学医学部 救急医学講座教授）



地球温暖化の影響で、日本の夏は確実に毎年暑くなっています。最高気温も上がっているし、熱帯夜や猛暑日の数そのものも増えてきています。さらに、夏自体も長くなっており、暑さをどう対処するのが非常に大事になっています。家の中にももっていたとしても、家の中の温度自体が上がっていて、熱中症になる方も増えていきます。大切なのは、室内の環境を涼しくすること、そして、適切な水分補給。また、子どもやお年寄りについては、まわりの人がきちんと見守り、ケアしてあげることが重要なポイントとなります。

今後も熊谷市と LIXIL では、この実証実験の結果を活用し 2020 年も“室内熱中症予防の啓発活動”をさらに推進していきます。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社 LIXIL（<http://www.lixil.co.jp/>）

本社：東京都江東区大島 2-1-1

報道関係の方から：広報 塚、岡本 MP. 070 - 5459 - 3195 / TEL. 03-6706-7020

一般の方から：お客さま相談センター TEL : 0120 - 126 - 001

※このニュースレターは、LIXIL ホームページ（URL: <http://www.lixil.co.jp/>）でも発表しています。

LIXIL

THINK
HEAT 



室内熱中症から家族を守ろう。

クールdeピース PROJECT

2019年 活動レポート

LIXILのコーポレート・レスポンスビリティ戦略



グローバルな
衛生課題の解決



世界の衛生環境を改善しよう！
みんなにトイレを
プロジェクト



水の保全と
環境保護



未来の子どもたちが暮らす環境を守る
みんなでスマイルエコプロジェクト



多様性の尊重



LIXIL
錦織チャレンジ
スポーツ施設サポートプロジェクト



“水の保全と環境保護”のエコアクションの一環として、
2018年より、「THINK HEAT」を活動スタート

THINK HEAT



考えよう
ヒトと地球に
やさしい温度

ヒトと地球にやさしい温度で、
「健康・快適」と「省エネ」の実現へ。
LIXILの“ THINK HEAT ”は、
温度に着目し、住まいでできることを
考える活動です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



これからのTHINK HEAT活動のポイント ~ 緩和策と適応策 ~

その影響は
世界各地で、日本で
顕在化

待ったなしの地球温暖化問題



地球温暖化を食い止めるために!

自然災害から暮らしを守るために!

温室効果ガスの排出量を減らす

緩和策



断熱



節湯

etc.

温暖化の影響による
自然災害の
規模拡大を
避けるのは困難!

気候変動の影響に備える

適応策



酷暑対策



台風対策

etc.

地球温暖化への対策として、
「緩和策」と「適応策」を両輪で進めていくことが大切

みんなで一緒に「THINK HEAT」

地域社会へ

自治体との協働プロジェクト



埼玉県熊谷市 × LIXIL



熊本県西原村 × LIXIL

子ども
たちへ

小学校へのお出前授業



38校・約3,720名の児童に授業を実施
(2018年7月～2020年2月末時点)

お客さまへ

窓からECOシェアプロジェクト



エコ商品を広く普及させながら、子供たちの室内熱中症予防を推進



従業員へ

緑のカーテン推進活動



全国の事業所や工場で緑のカーテンを設置

パートナーさまや自治体と協働し、
さまざまな人たちと、温度について考えてきました



クールdeピース PROJECT

室内熱中症から家族を守ろう。

夏でも快適かつ安心・安全に暮らせる

室内環境づくりを推進する、室内熱中症対策プロジェクト。

埼玉県熊谷市や熊本県西原村等の自治体と連携して、

室内熱中症予防や日よけ習慣の啓発に取り組んでいます。

埼玉県熊谷市 × LIXIL

外付日よけ「スタイルシェード」

実証実験 プログラム

REPORT 01

モニター宅での実証実験

REPORT 02

無人住宅での実証実験



REPORT 01

モニター宅 での実証実験



埼玉県熊谷市の協力のもと、
実証実験モニターを募集。
申込数：349世帯の中から、
24世帯で実証実験を実施。



熊谷市 × LIXIL

熊谷市にお住まいの方 **最大30世帯**

室内熱中症ゼロを目指して！
外付日よけ「スタイルシェード」
実証実験モニター募集！

記録的な猛暑に襲われた2018年、真中で最も深刻だったのは202人のうち、室内熱中症は104人と過半数を占めました。そこで、室内熱中症を減らすため、室内熱中症対策のポイントの一つ、暑から入る日差しを遮り熱を蓄くしないことについて、外付日よけ「スタイルシェード」を使った実証実験を実施します。ぜひ、暑さ対策日傘を捨てるまでもづくりにご協力ください。

日差しによる熱を最大97%カット

無償提供



実証実験の流れ

ご自宅にスタイルシェード及び測定器具の設置

室内温度、エアコン消費電力の自動測定

ご本人様による体温・血圧の測定(1日3回)

※上記に加え、断熱調査・断材等の詳細実験にご協力いただける方も募集いたします(別途謝礼あり)

熊谷市と熊谷市立11社は、平成29年に室内熱中症対策プロジェクト「クール・熊谷」を立ち上げ、室内熱中症ゼロを目指した活動を行っています。平成29年は、社会実用等に外付日よけを実施し、平成30年は、設置した日よけの効果測定と、暑さ感の専門家を招いた室内熱中症予防セミナーを実施しました。

室内熱中症対策のポイント

日差しを遮る

ご自宅に水分を補給する

涼しい服装を着る

エアコン・扇風機を上手に使う

詳しくは募集をご覧ください

【 実験内容 】

- 暑さ指数（WBGT値）の計測
- 窓付近温度&室内温度の計測
- 事前・事後アンケートの実施

- 告知 2019年4月26日

- 募集方法 熊谷市の市報、ホームページ等

- 募集期間 2019年5月7日～5月31日

- 募集世帯数 最大30世帯

- 申込み数 349世帯 ※倍率11.6倍

- モニター数 24世帯 ※施工可否、協力条件により決定

- 実施期間 2019年7～9月



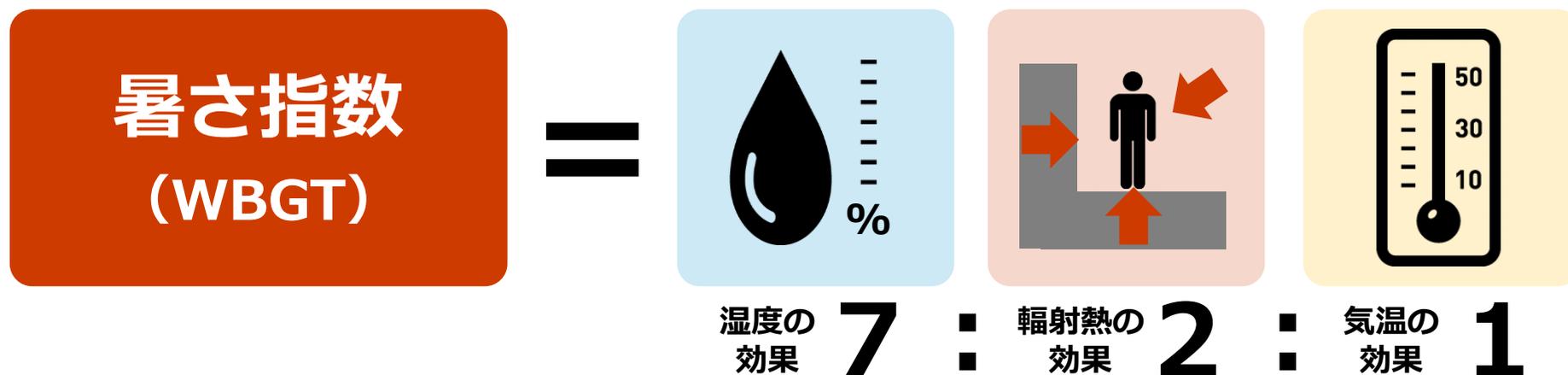
気温・日照時間・太陽高度に近い以下の日程で実施
 比較①:7月30日と8月5日 比較②:8月24日と8月26日

測定項目	測定機器	設置場所
<ul style="list-style-type: none"> ●温度 ●湿度 		①屋外 : 床上200cm ③部屋中央 : 床上30cm ③部屋中央 : 床上110cm ④エアコン : 吹出し口
<ul style="list-style-type: none"> ●温度 ●湿度 ●照度 		②窓際 : 床上110cm
<ul style="list-style-type: none"> ●暑さ指数 		②窓際 : 床上50cm
<ul style="list-style-type: none"> ●消費電力 		④エアコン : コンセント

暑さ指数 (WBGT) とは

熱中症を引き起こす原因は「気温」だけではありません。

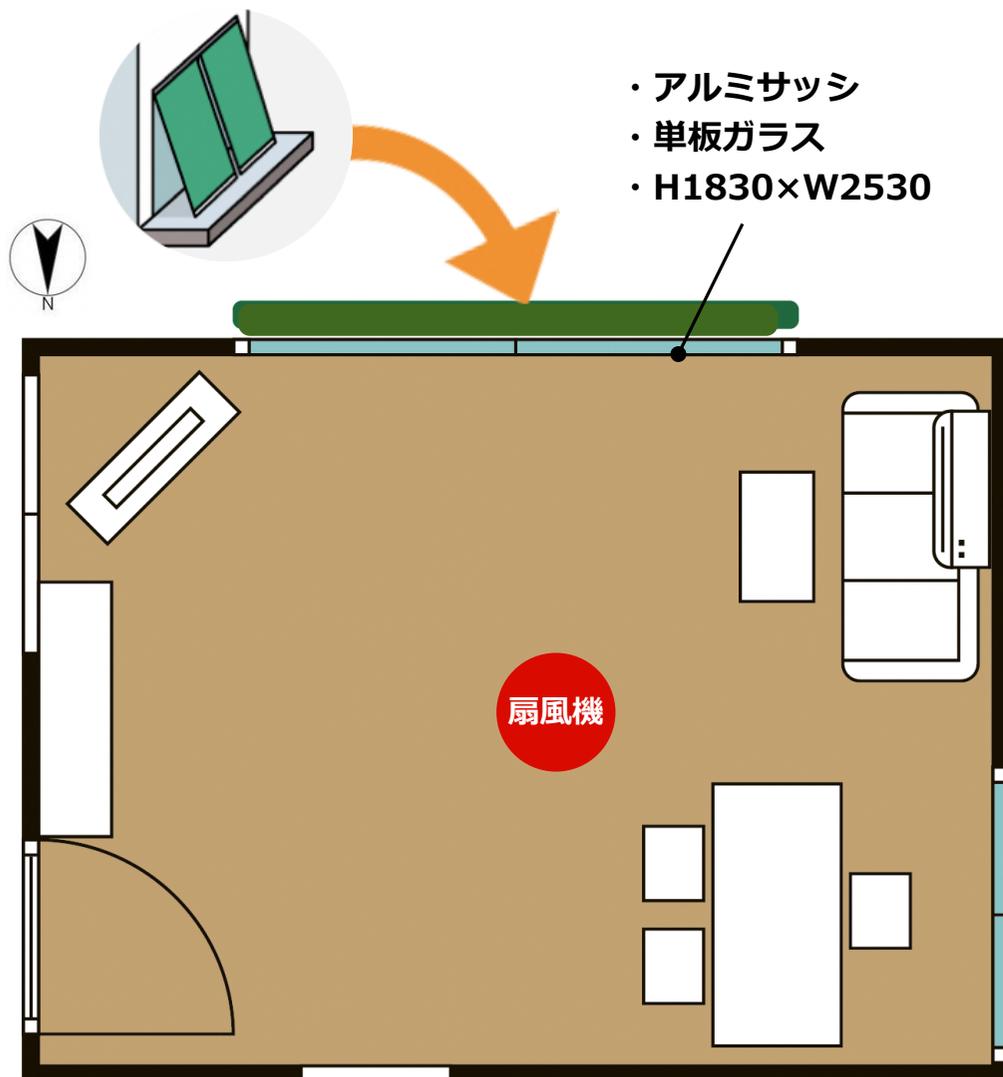
「暑さ指数」は、湿度や輻射熱も含めて数値化された、いわば“熱中症を予防するための数値”です。



暑さ指数28℃以上になると、熱中症のリスクが高まる

暑さ指数 31℃以上	危険	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。 外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
暑さ指数 28℃以上	嚴重警戒	外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
暑さ指数 25℃以上	警戒	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
暑さ指数 25℃未満	注意	一般に危険性は少ないが、激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

CASE① H様邸 ~エアコンをあまり使用しない家庭のケース~



リビングダイニング 12.6㎡

MEMO

- 家族構成：夫65歳 / 妻60歳 / 子26歳
- 奥さまはエアコンにあまり使用せずに、採風と扇風機を使用。
- 旦那さまがリビングで過ごす際にエアコンを使用。



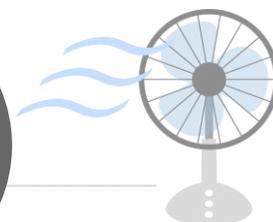
CASE① H様邸 ~エアコンをあまり使用しない家庭のケース~



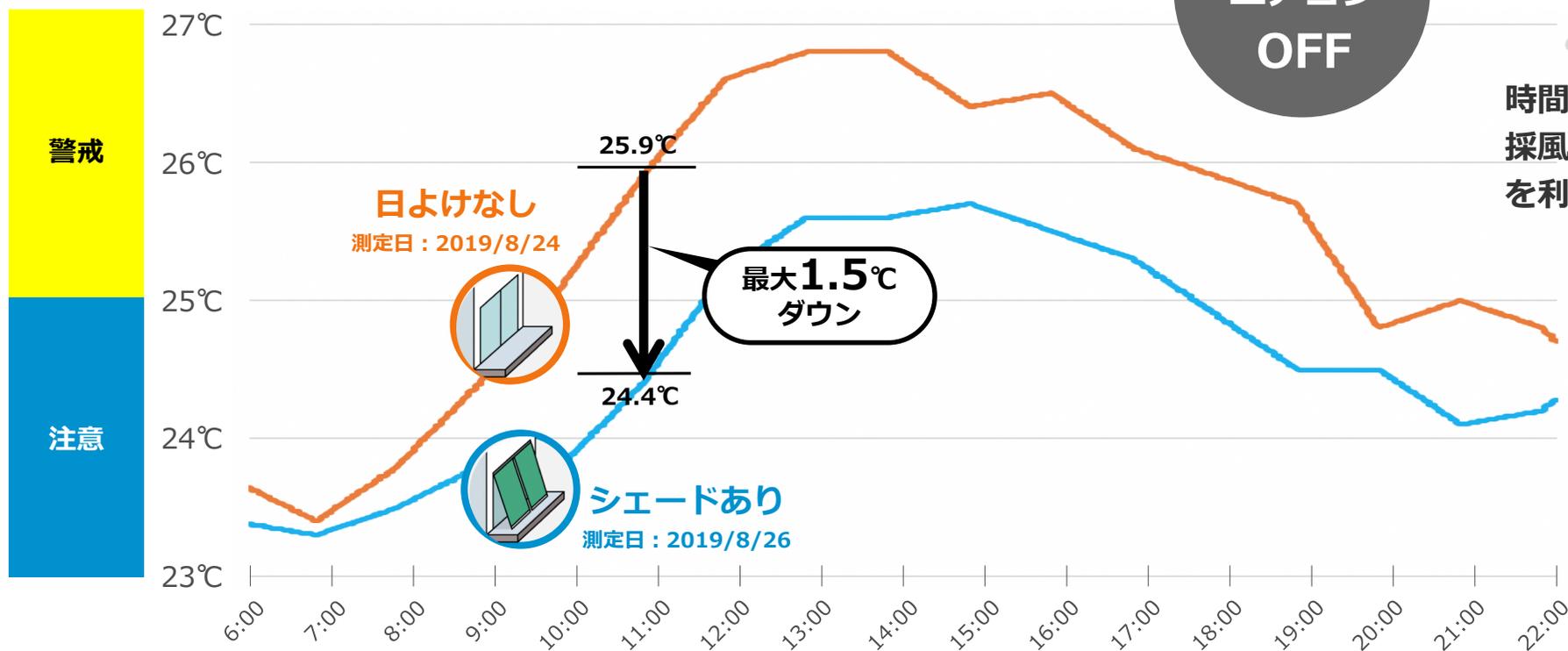
暑さ指数の比較

(外気温の推移が近い2日間での比較)

どちらも
エアコン
OFF



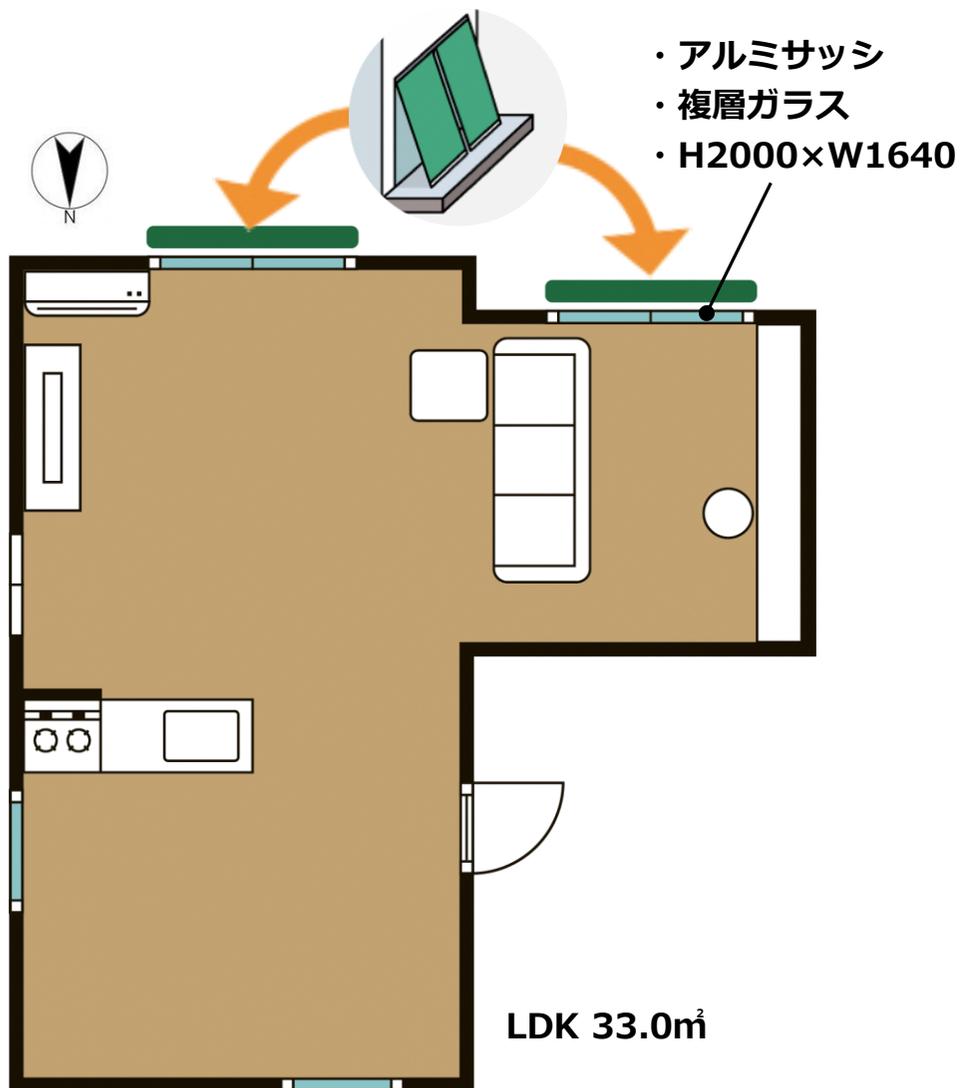
時間により、
採風・扇風機
を利用



POINT

スタイルシェードを設置することで、暑さ指数の上昇が緩和。
エアコンを使用せずとも、採風&扇風機で比較的快適な環境をキープ。

CASE② I様邸 ～暑い時間帯のみエアコンを使用する家庭のケース～



MEMO

- 家族構成：夫41歳 / 妻41歳 / 子16歳 / 子12歳 / 子7歳
- エアコンは比較的使用するご家庭。
- 南面の2つの窓により、午前中から太陽熱が室内に侵入してくる。

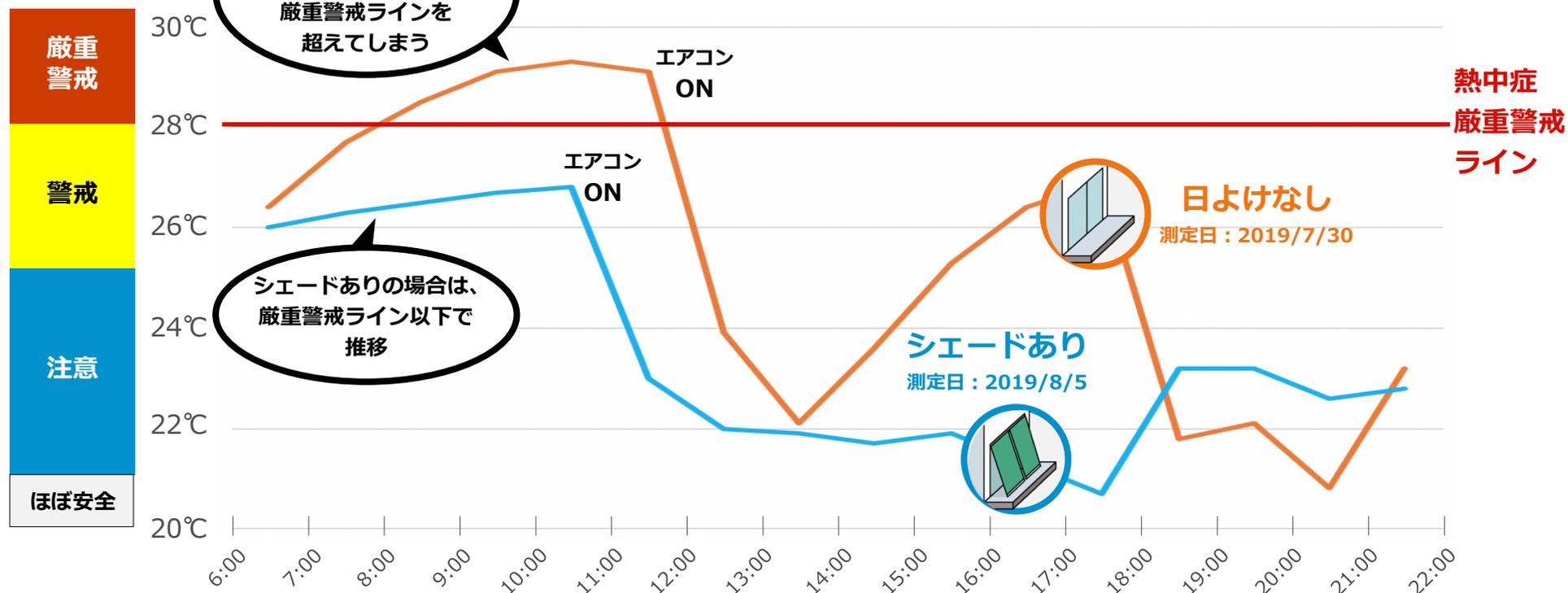


CASE② I様邸 ～暑い時間帯のみエアコンを使用する家庭のケース～



暑さ指数の比較

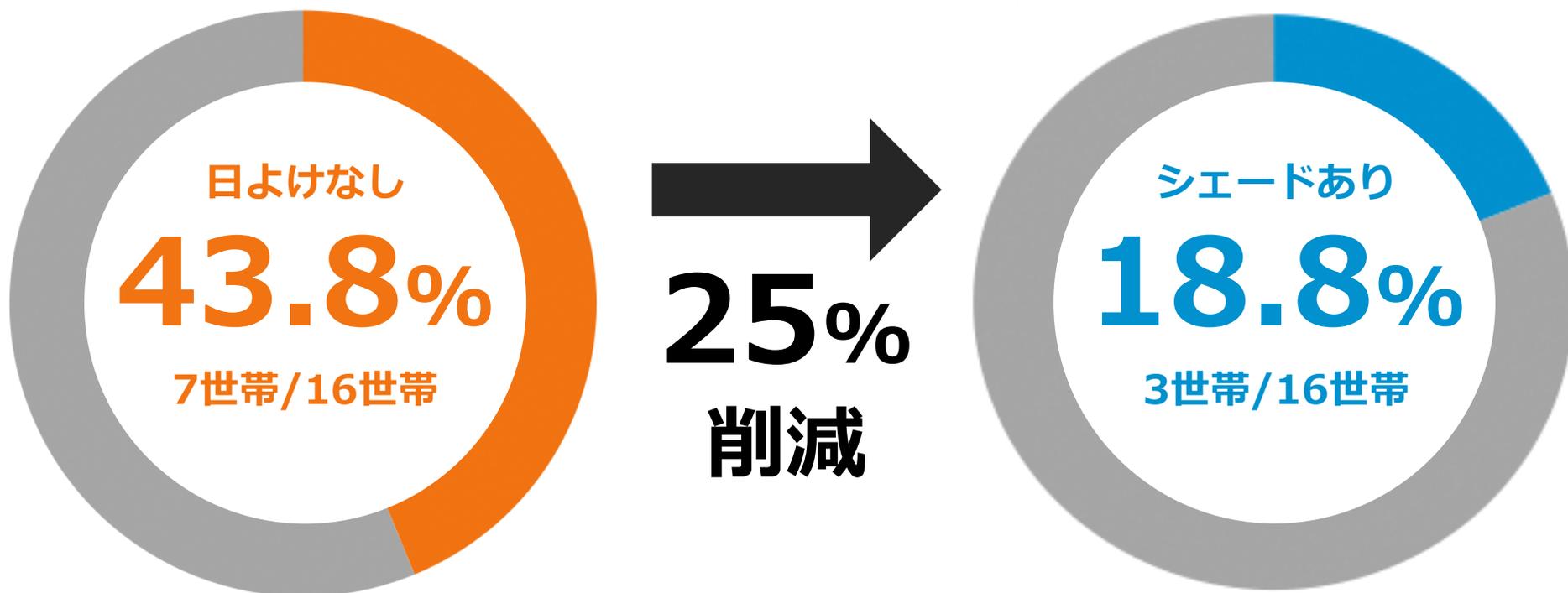
(外気温の推移が近い2日間での比較)



POINT

暑さ指数は午前中がピーク。“日よけなし”の場合は室内熱中症警戒ラインを越え、“シェードあり”は警戒ライン以下で推移。

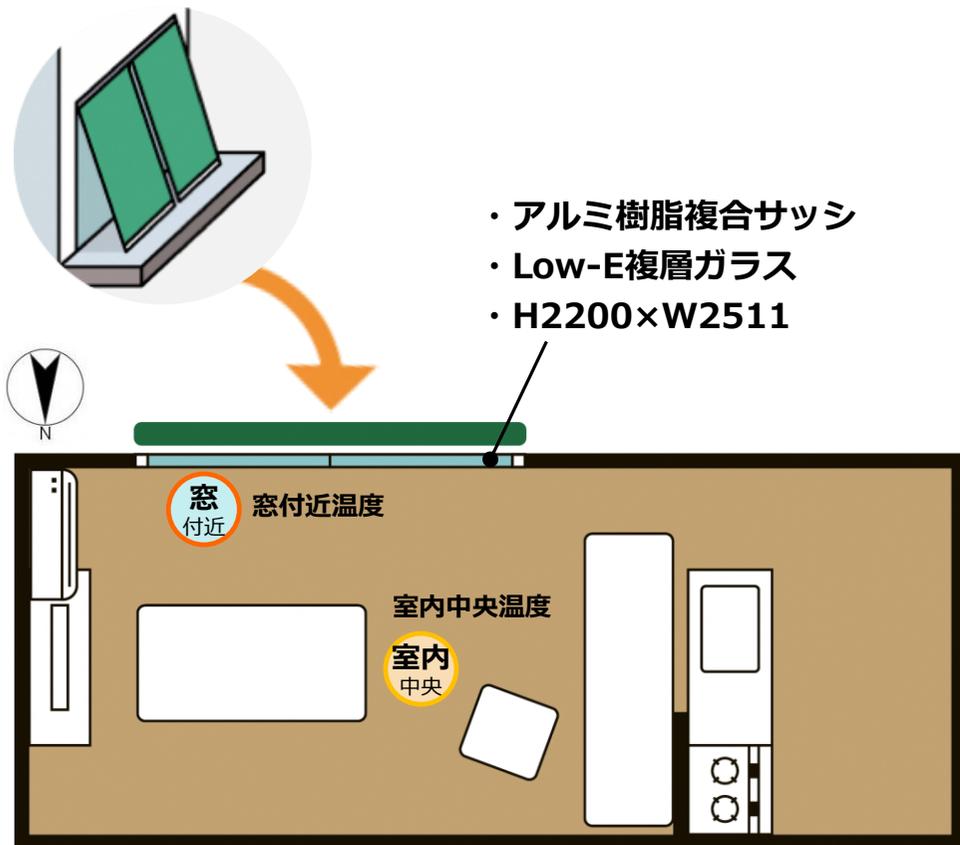
暑さ指数28℃以上のモニター世帯



POINT

暑さ指数が嚴重警戒ライン「28℃以上」のモニター世帯は、
シェードを設置することにより25%削減。

CASE③ A様邸 ~エアコンをよく使用する家庭のケース~



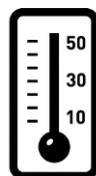
LDK 15.7㎡

MEMO

- 家族構成：夫53歳 / 妻52歳 / 母83歳
- 昨年（2018年）の夏の終わりに、現在の住まいに入居。
- この家で本格的な夏を過ごすのは、今年が初めて。



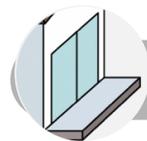
CASE③ A様邸 ~エアコンをよく使用する家庭のケース~



窓付近温度&室内温度の比較

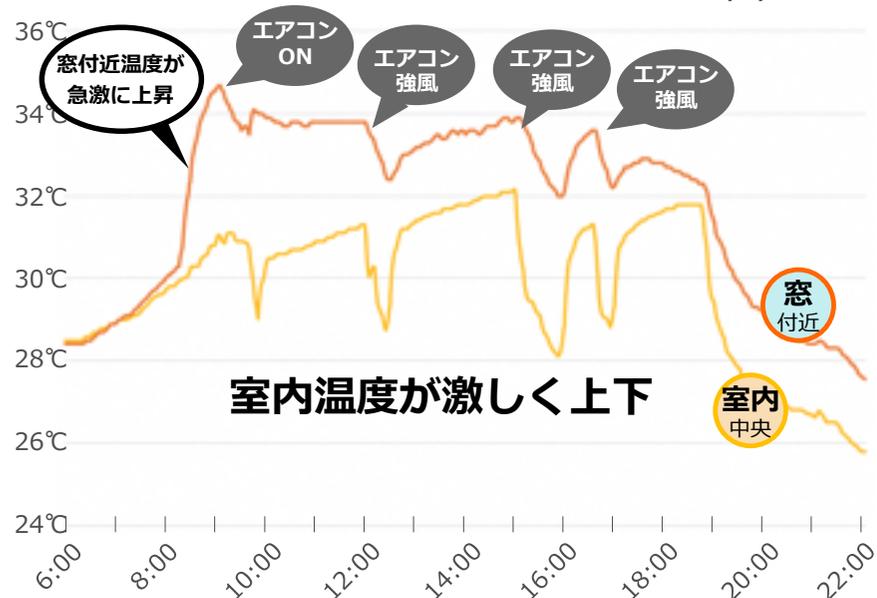
(外気温の推移が近い2日間での比較)

— 窓付近温度
— 室内温度 (室内中央温度)



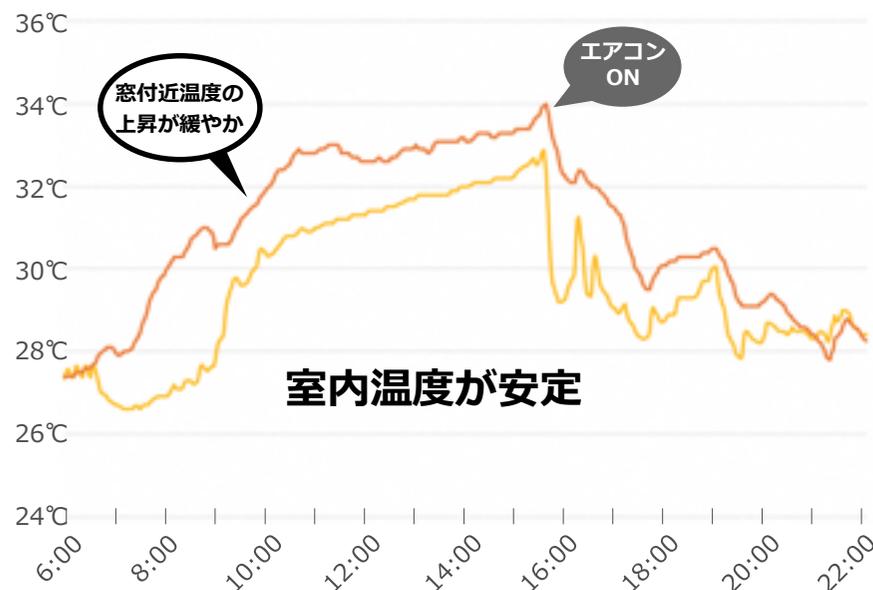
日よけなしの場合

測定日: 2019/7/30



シェードありの場合

測定日: 2019/8/5



POINT

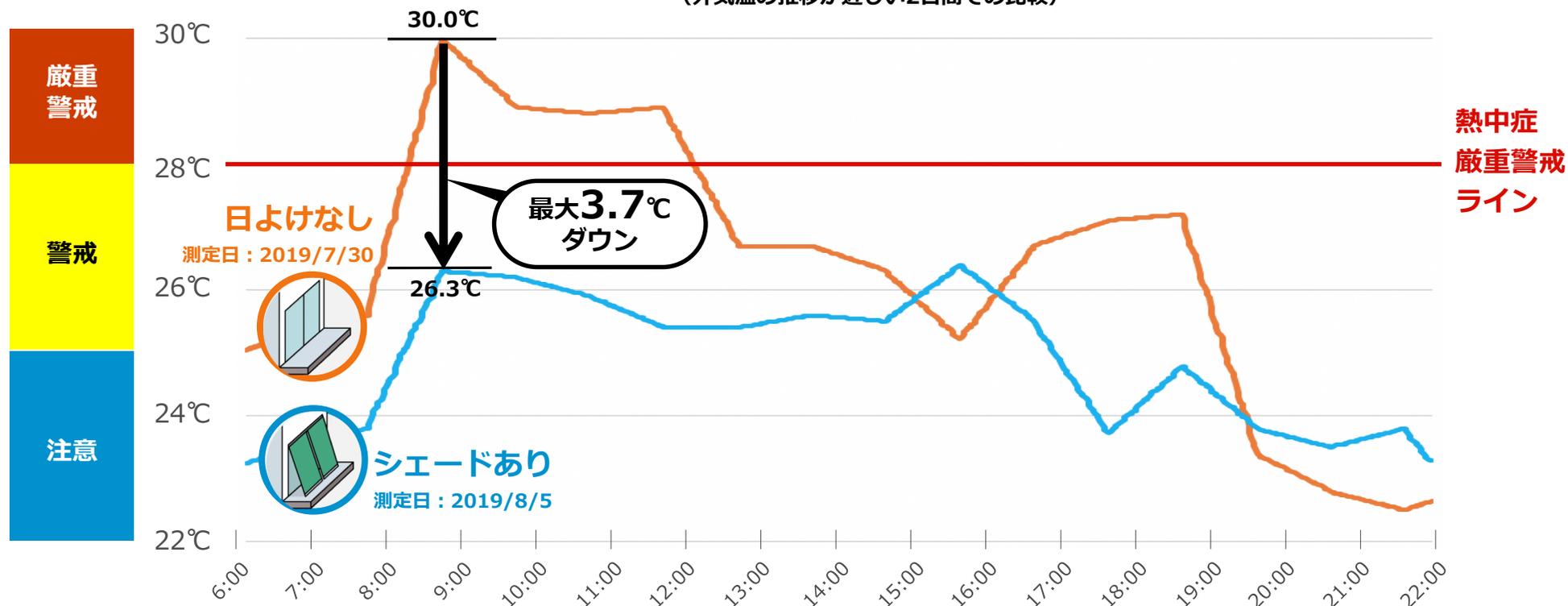
“日よけなし”の場合、窓付近との温度差が大きく、室内温度が激しく変動。
“シェードあり”は、窓付近との温度差も小さく、室内温度が安定して推移。

CASE③ A様邸 ~エアコンをよく使用のご家庭のケース~



暑さ指数の比較

(外気温の推移が近い2日間での比較)



POINT

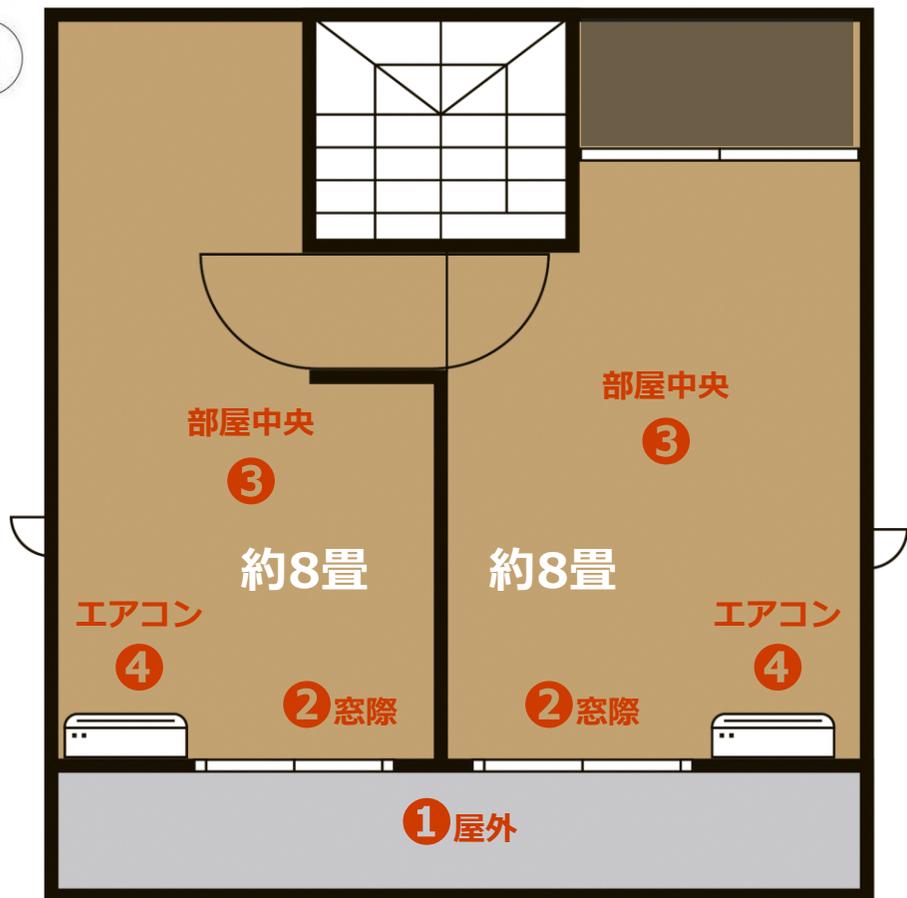
I様邸と同様、暑さ指数は午前中がピーク。“日よけなし”の場合は室内熱中症警戒ラインを越え、“シェードあり”は警戒ライン以下で推移。

REPORT 02

無人住宅 での実証実験

埼玉県熊谷市の戸建住宅（空き家）
を借りて実証実験を実施





埼玉県熊谷市の木造戸建住宅/築9年
2階の2部屋を使って測定

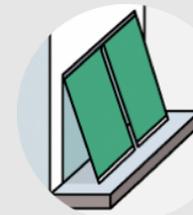
気温・日照時間・太陽高度に近い以下の日程で実施
2019年8月26日、9月17日、9月20日

測定項目	測定機器	設置場所
<ul style="list-style-type: none"> ● 温度 ● 湿度 		<ul style="list-style-type: none"> ①屋外 : 床上200cm ③部屋中央 : 床上30cm ③部屋中央 : 床上110cm ④エアコン : 吹出し口
<ul style="list-style-type: none"> ● 温度 ● 湿度 ● 照度 		<ul style="list-style-type: none"> ②窓際 : 床上110cm
<ul style="list-style-type: none"> ● 暑さ指数 		<ul style="list-style-type: none"> ②窓際 : 床上50cm
<ul style="list-style-type: none"> ● 消費電力 		<ul style="list-style-type: none"> ④エアコン : コンセント

【実験内容】

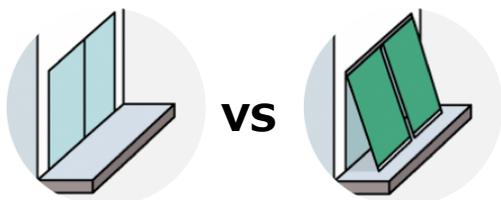
- ☑ 暑さ指数の比較
- ☑ 窓付近温度&室内温度の比較
- ☑ エアコン消費電力の比較

シェード



スタイルシェード
日射熱83%カット

比較条件①

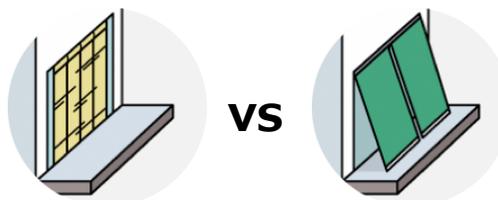


日よけなし

シェード

一般複層ガラス

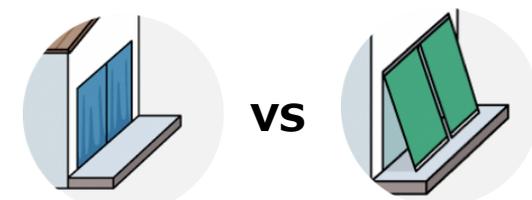
比較条件②



すだれ

シェード

比較条件③



遮光カーテン

シェード

遮光度99.99%以上

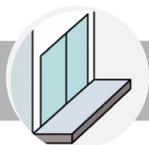
比較条件①

日よけなし vs シェード



サーモ動画の比較

測定日: 2019/9/10 AM5:00~PM6:00



日よけなしの場合



シェードありの場合



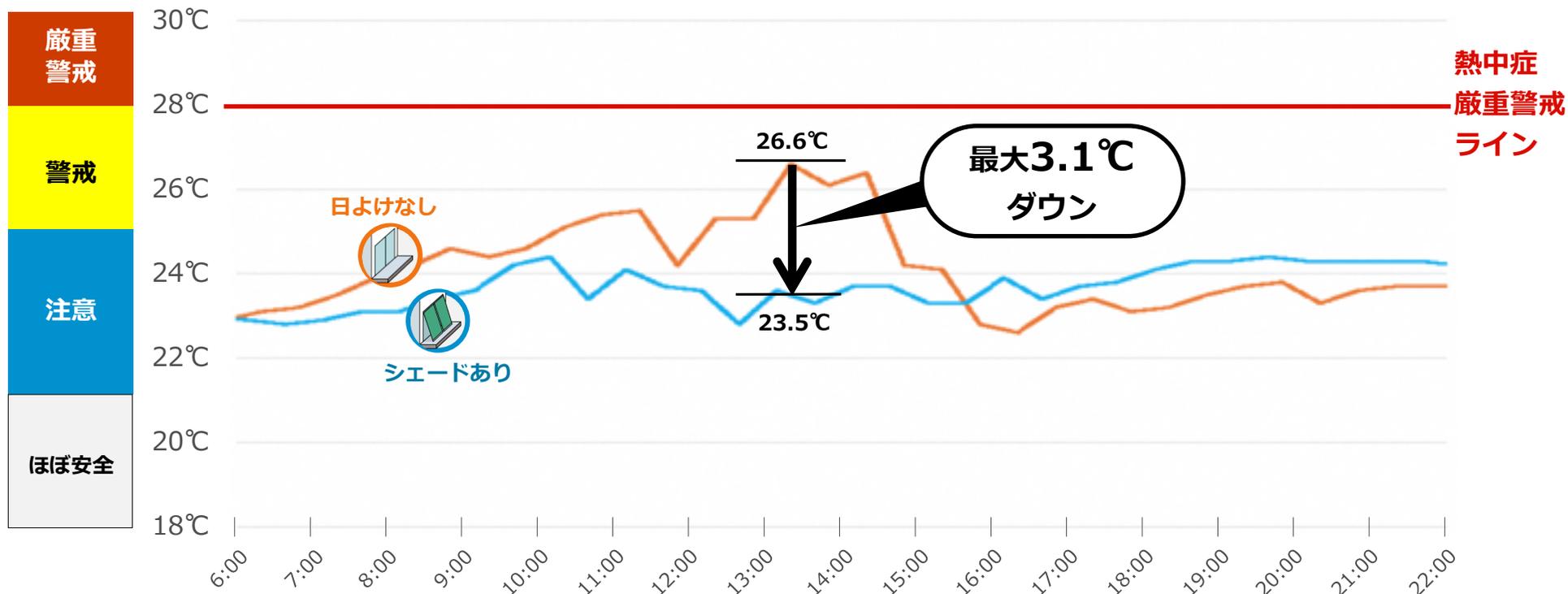
比較条件①

日よけなし vs シェード



暑さ指数の比較

測定日: 2019/8/26



POINT

“シェードあり”の場合、日中の暑さ指数の上昇が緩和。
 “日よけなし”に比べて「最大3.1℃低く」という計測結果に。

比較条件①

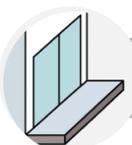
日よけなし vs シェード



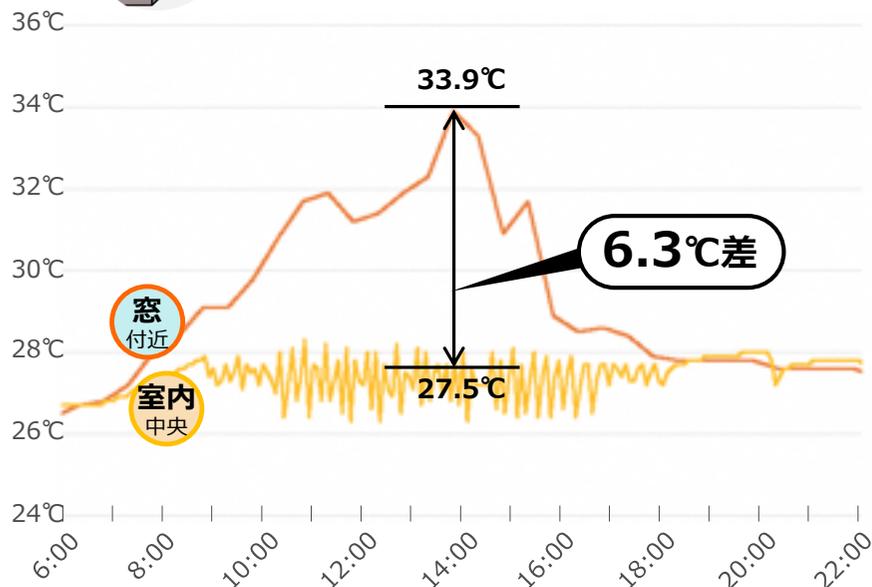
窓付近温度&室内温度の比較

測定日: 2019/8/26

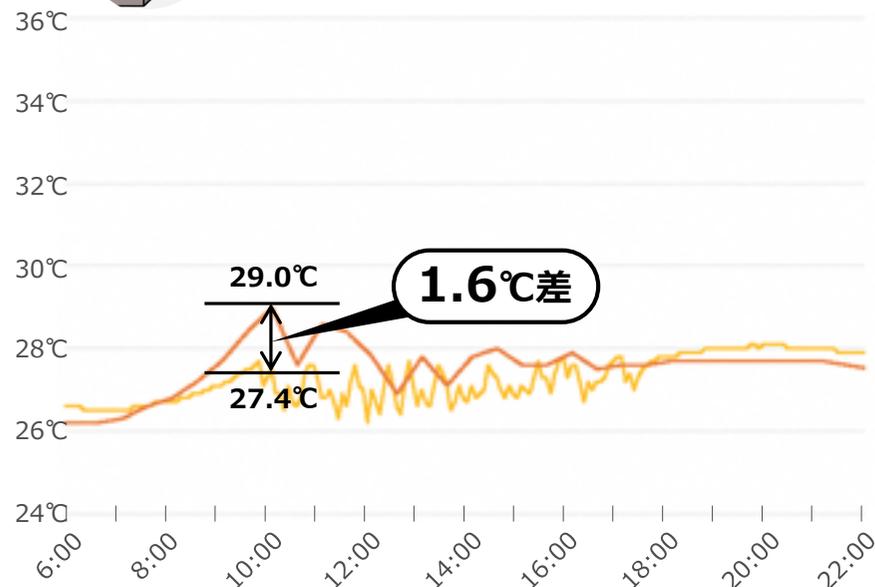
— 窓付近温度
— 室内温度 (室内中央温度)



日よけなしの場合



シェードありの場合



POINT

“日よけなし”は室内温度が激しく変動し、窓付近との温度差も大きい。
“シェードあり”は室内温度が安定して推移し、窓付近との温度差も小さい。

比較条件①

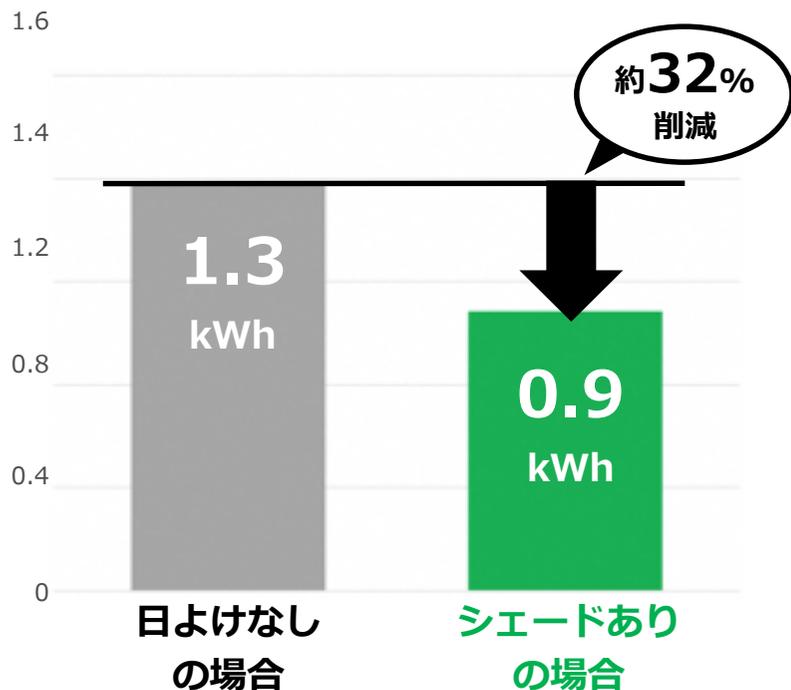
日よけなし vs シェード



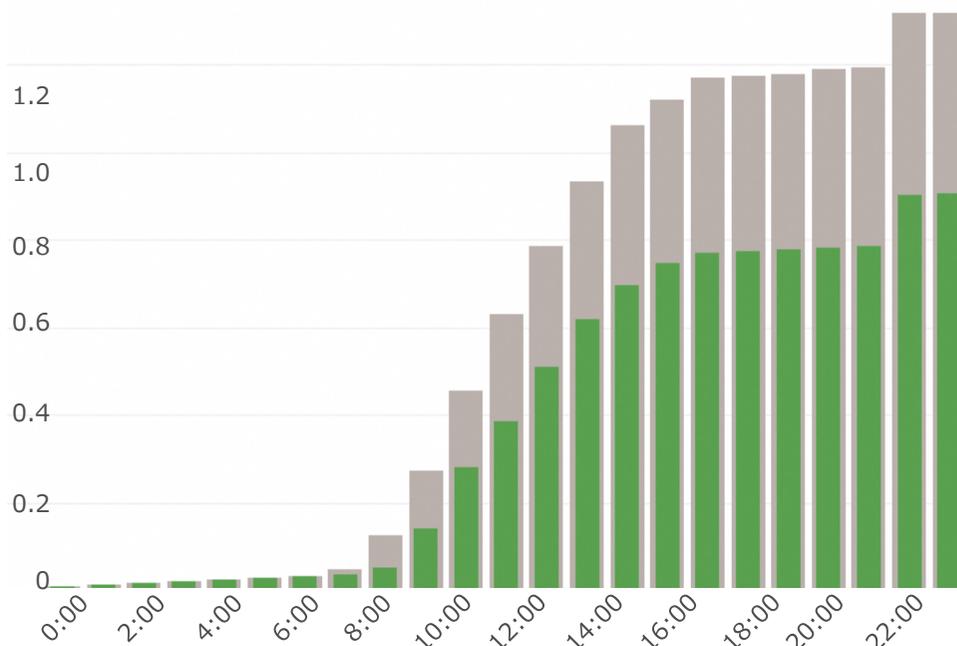
エアコン消費電力の比較

測定日: 2019/8/26

(kWh) <1日 (24時間) の消費電力>



(kWh) <時間ごとの消費電力の累計>



POINT

“シェードあり”の場合、“日よけなし”と比べて消費電力が約32%削減。

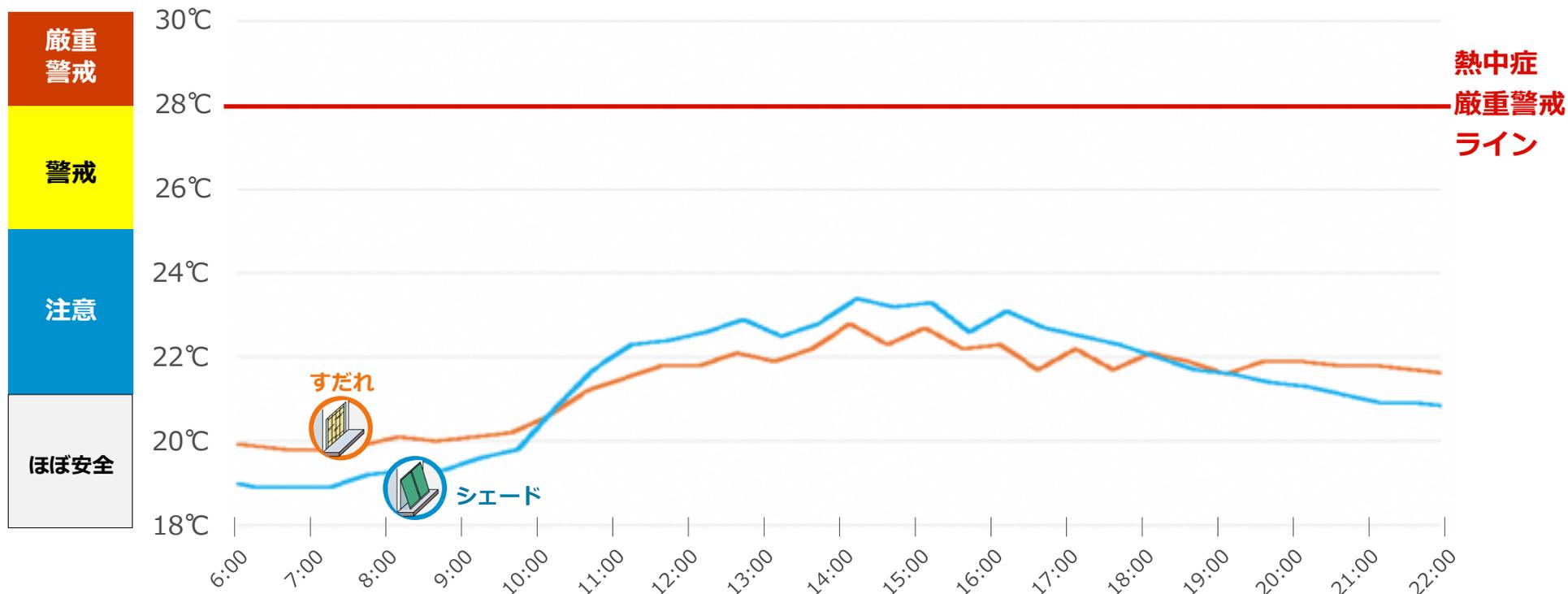
比較条件②

すだれ vs シェード



暑さ指数の比較

測定日: 2019/9/20

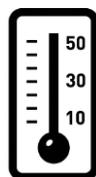


POINT

“すだれ”と“シェード”の暑さ指数は、
いずれも熱中症警戒ラインを大きく下回りながら、ほぼ同水準で推移。

比較条件②

すだれ vs シェード



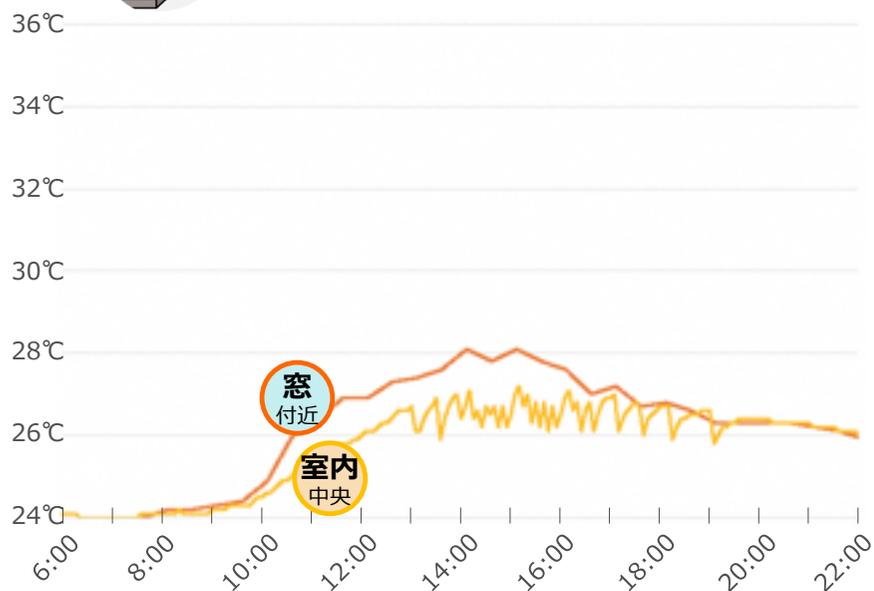
窓付近温度&室内温度の比較

測定日: 2019/9/20

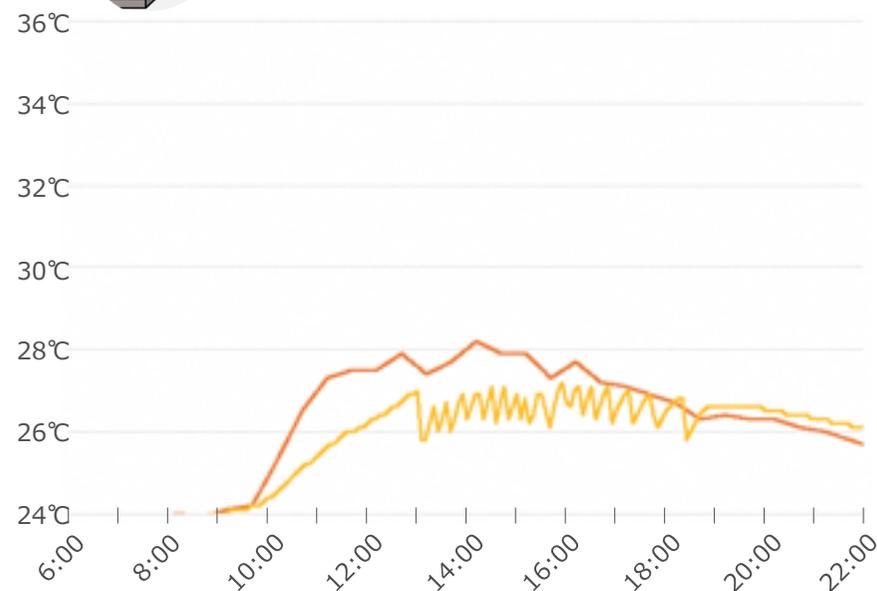
— 窓付近温度
— 室内温度 (室内中央温度)



すだれの場合



シェードの場合



POINT

“すだれ”と“シェード”はいずれも
室内温度と窓付近温度の温度差が小さく、ほぼ同水準で推移。

比較条件②

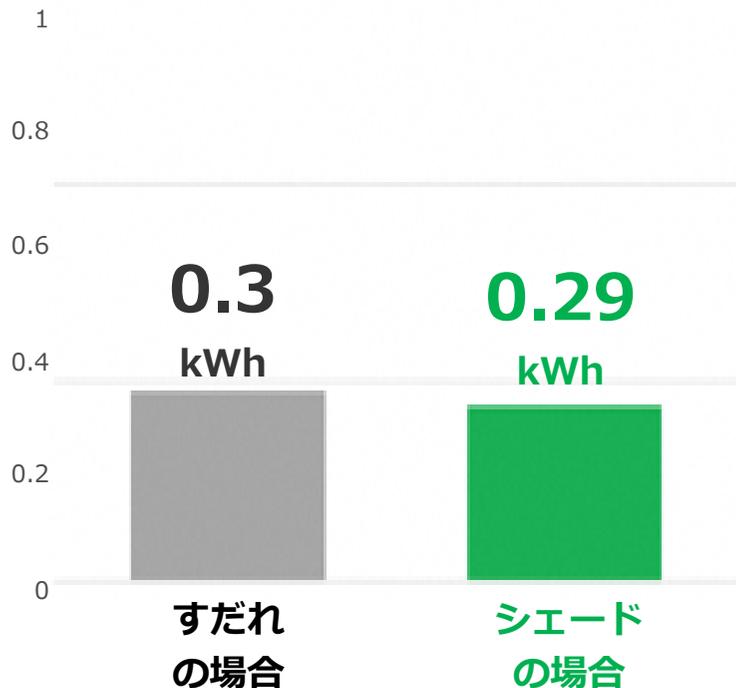
すだれ vs シェード



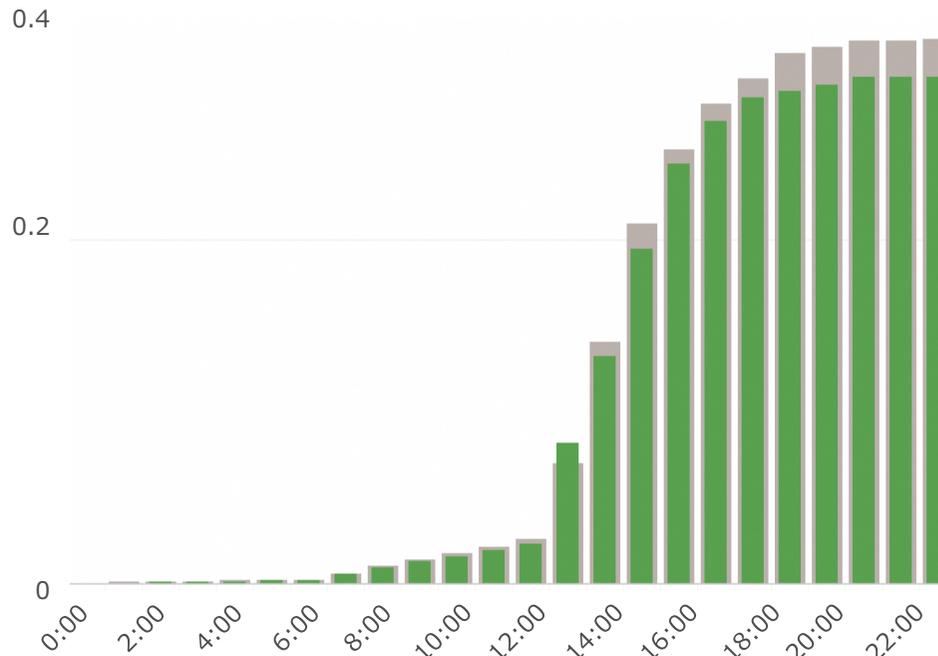
エアコン消費電力の比較

測定日: 2019/9/20

(kWh) <1日 (24時間) の消費電力>



(kWh) <時間ごとの消費電力の累計>

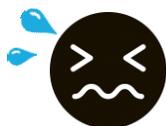


POINT

“すだれ”と“シェード”の消費電力は、ほぼ同等。

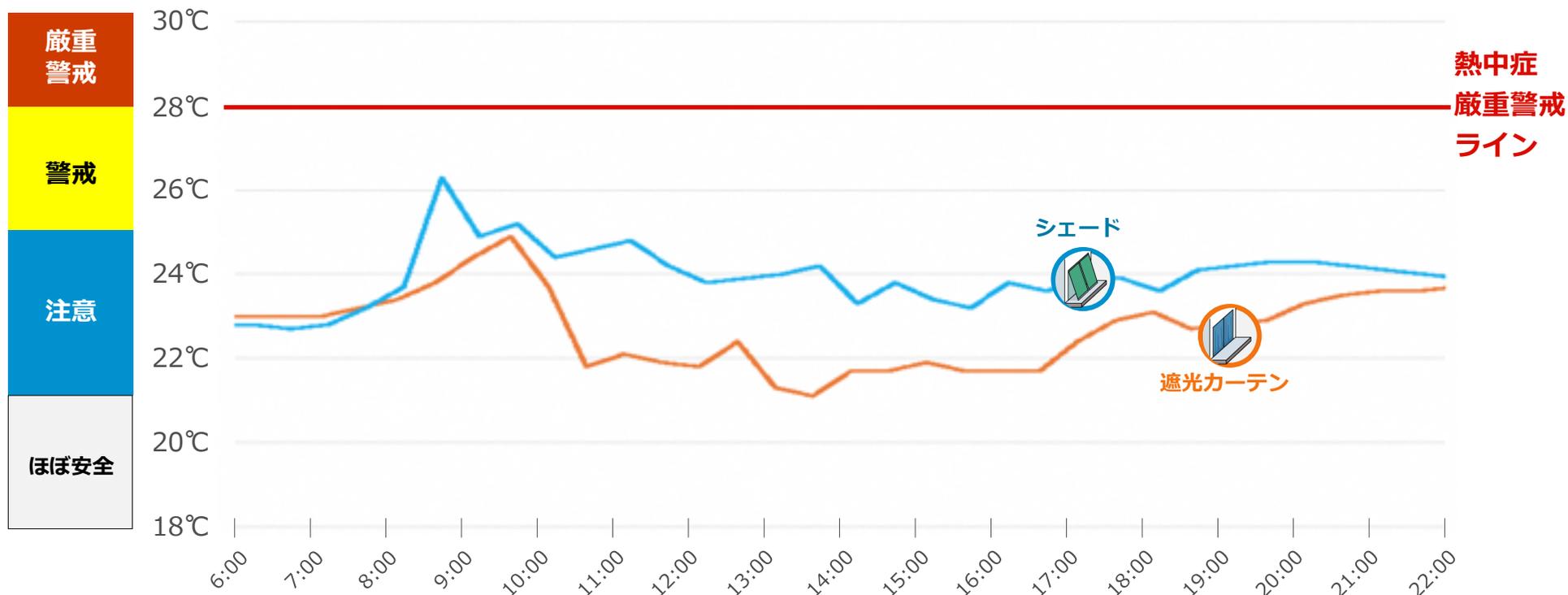
比較条件③

遮光カーテン vs シェード



暑さ指数の比較

測定日: 2019/9/17



POINT

“遮光カーテン”の暑さ指数が、“シェード”に比べて低い水準で推移。

比較条件③

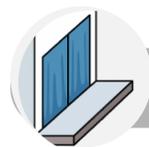
遮光カーテン vs シェード



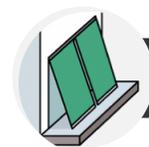
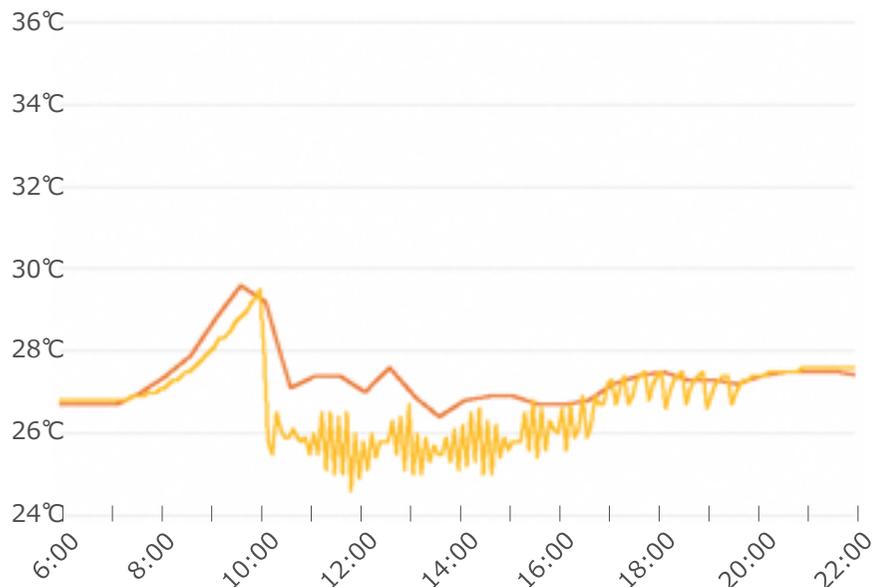
窓付近温度&室内温度の比較

測定日: 2019/9/17

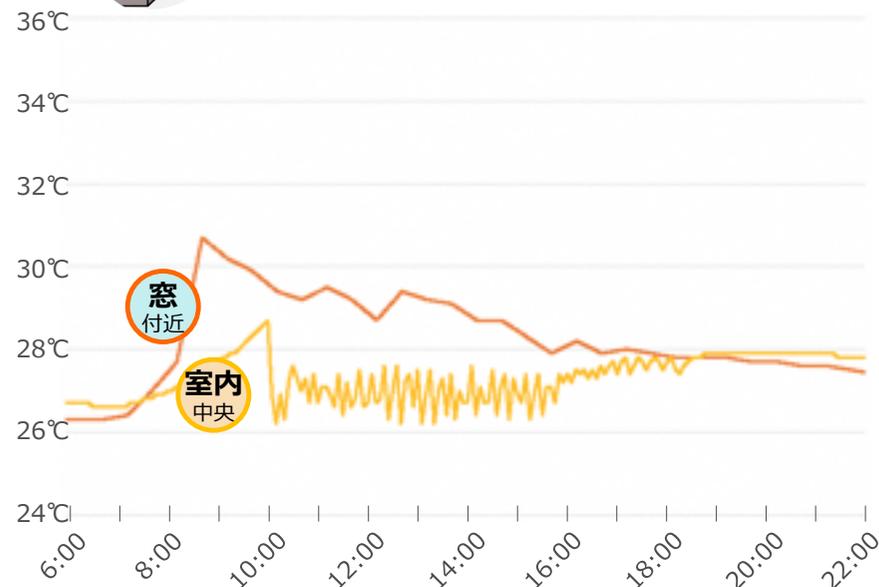
— 窓付近温度
— 室内温度 (室内中央温度)



遮光カーテンの場合



シェードの場合



POINT

“遮光カーテン”の場合、温度差は小さいが、室内温度が下がりすぎている。
“シェード”は、“遮光カーテン”に比べて室内温度が安定して推移。

比較条件③

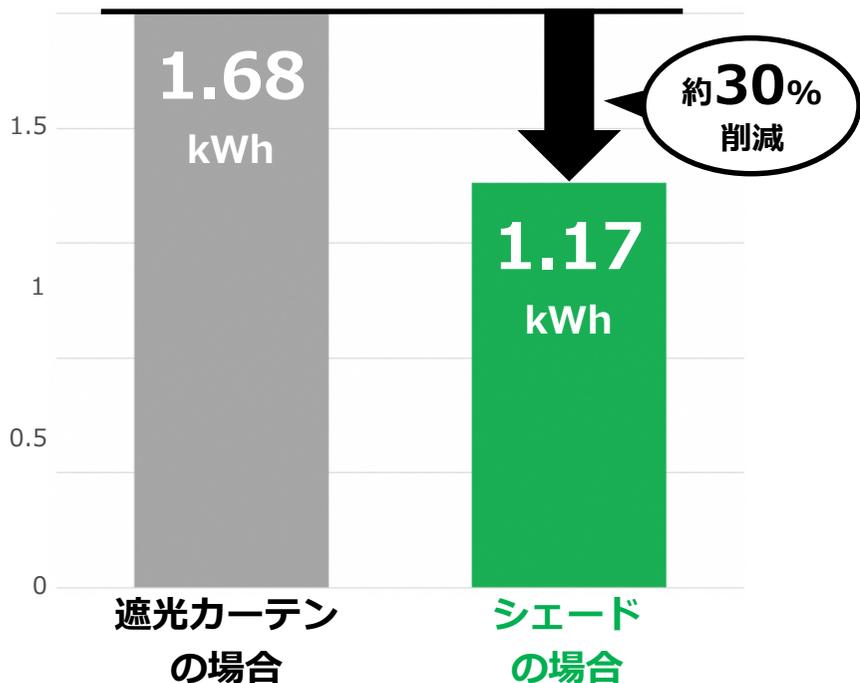
遮光カーテン vs シェード



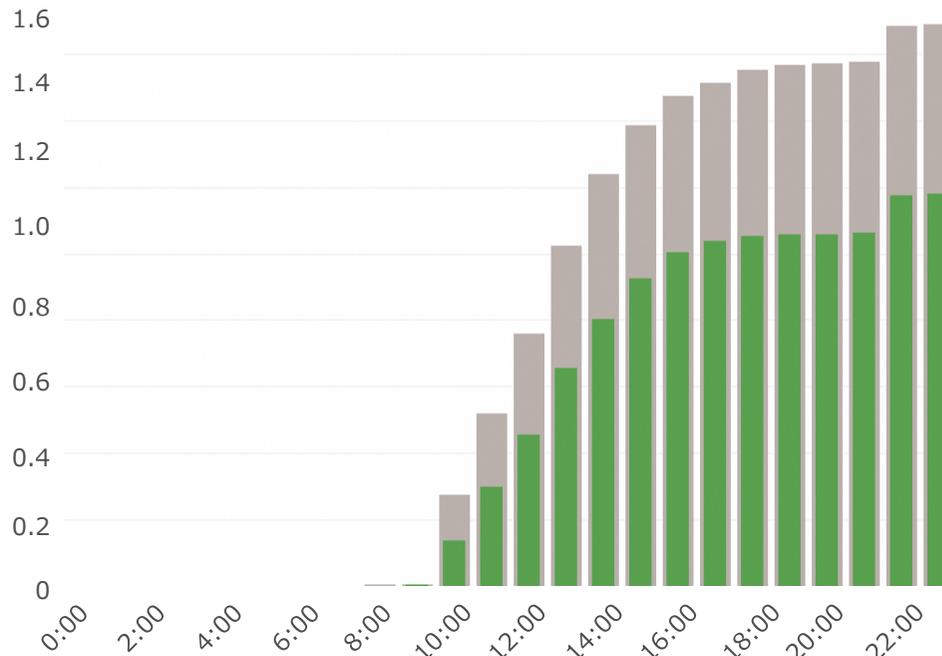
エアコン消費電力の比較

測定日: 2019/9/17

(kWh) <1日 (24時間) の消費電力>



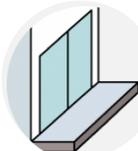
(kWh) <時間ごとの消費電力の累計>



POINT

“シェード”の場合、“遮光カーテン”と比べて消費電力が約30%削減。

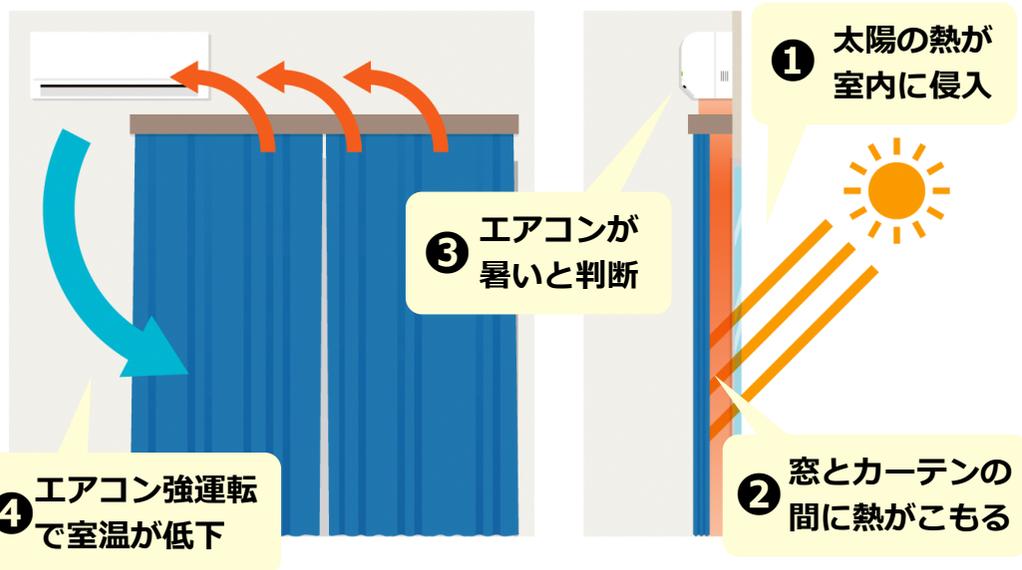
REPORT 02 無人住宅での実証実験

	 日よけなし	 シェード	 すだれ	 遮光カーテン
暑さ指数	 暑さ指数が上昇	  暑さ指数の上昇が大幅に緩和	 シェードとほぼ同等	 シェードよりもさらに低い水準で推移
窓付近温度 & 室内温度	 窓付近と室内の温度差が大きい	  窓付近と室内の温度差が小さい	 シェードとほぼ同等	 「冷え過ぎ」なほど低い水準で推移
エアコン消費電力	 消費電力が上昇	  消費電力が約32%削減	 シェードとほぼ同等	 シェードに比べ消費電力が大幅に上昇

すだれは、「室内が暗くなる」「傷みやすい」「片付けるのが面倒」などのデメリットも…

“遮光カーテン”の暑さ指数が低く、消費電力が高くなる理由

【 遮光カーテンの場合 】



【 シェードの場合 】



有識者による解説

前 真之 先生（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻准教授）

高断熱な窓の場合、一度室内に入った熱が外へ逃げにくくなります。結果として、窓とカーテンとの間に熱がこもり、窓近くに設置したエアコンが暑いと判断して、強風運転をしてしまうことで、室内温度の冷え過ぎの原因になってしまうのです。省エネの観点からも、熱は窓の外側でカットすることが望ましいといえます。



モニター宅での実証実験から分かったこと

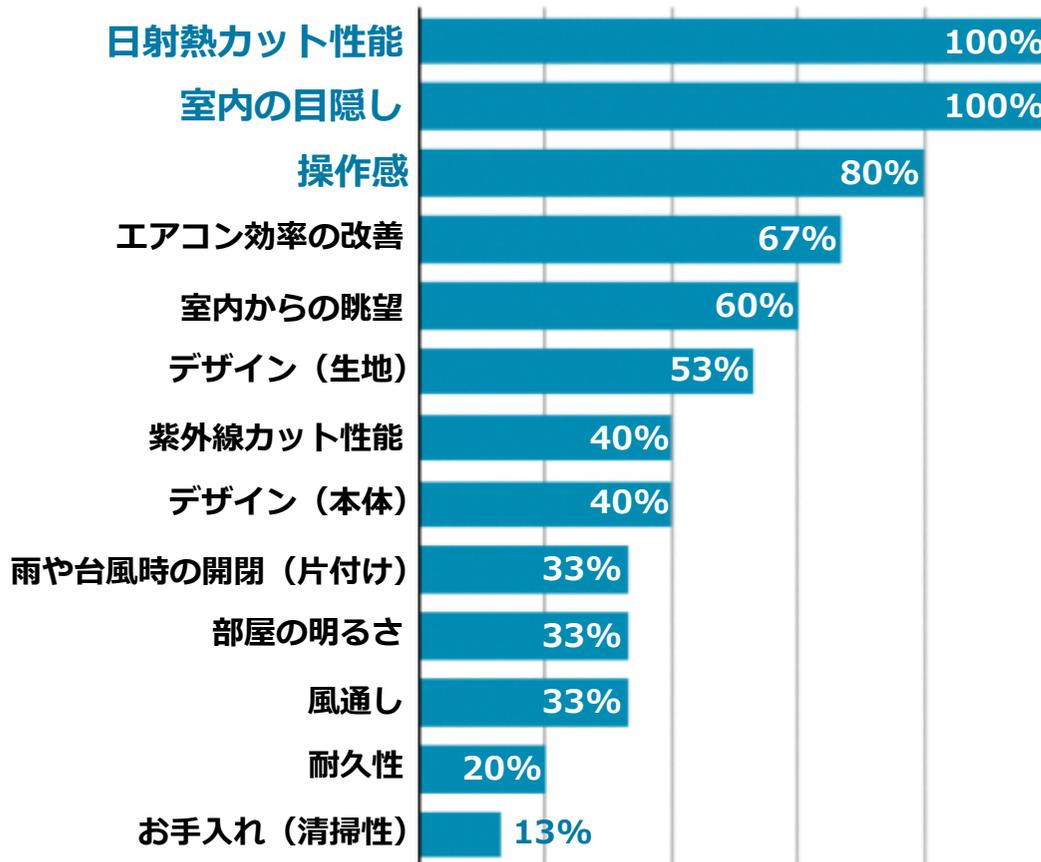
- ☑ 暑くなるまでエアコンの使用を我慢している世帯がある
- ☑ 午前中から室内熱中症の危険性がある

無人住宅での実証実験から分かったこと

- ☑ スタイルシェードとエアコンを併用することで、室温上昇を抑え温度が安定する
- ☑ 窓の外で日除けすることで、エアコンの消費電力を遮光カーテンと比べて約30%削減することができる

モニターアンケート (n=24)

Q スタイルシェードを設置して「良い」と感じたことは? (複数回答)



VOICE

“日射熱カット性能”について

「体感的に日差しの熱を感じなくなった」
「エアコンの設定も高めにできた」
「エアコンの効きが良かった」

“室内の目隠し”について

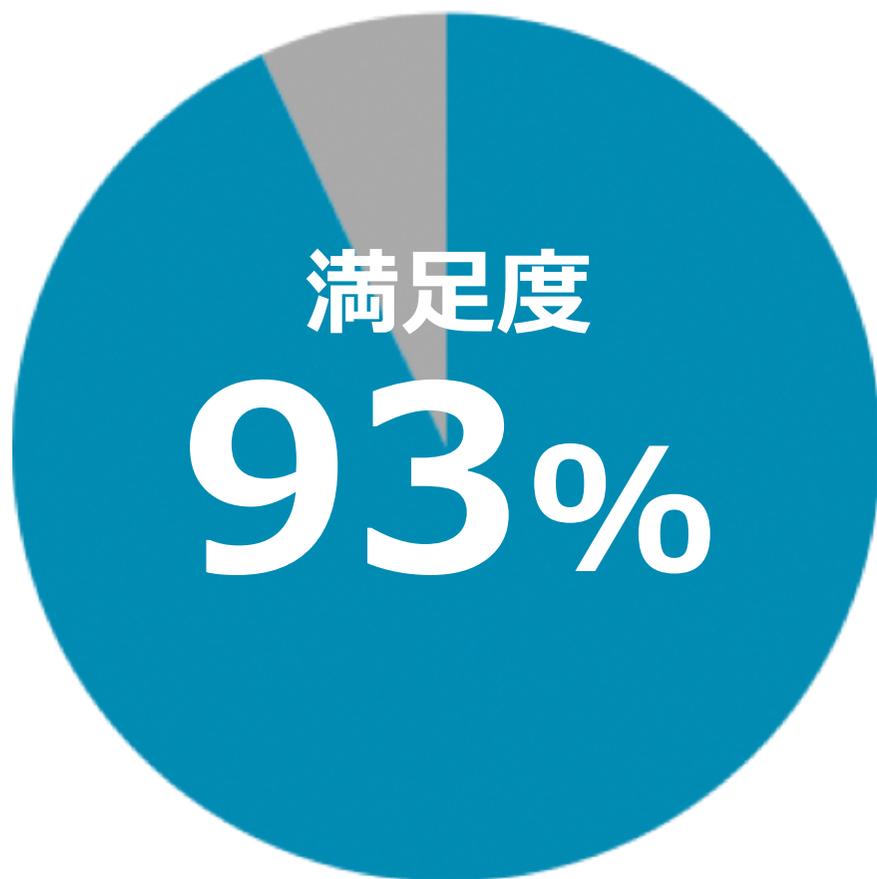
「外からの視線を気にして障子を
閉めっぱなしにしていたのが解消された」

“操作感”について

「他の日よけと比べて使いやすい」
「子どもでも簡単に上げ下げできる」

モニターアンケート (n=15)

Q スタイルシェードの満足度は?



VOICE

「遮熱の効果を実感できた」

「エアコンの効きが良かった」

「暑さ、日差しのまぶしさ・
強さがやわらいた」

「思ったより明るく快適に過ごせた」

「窓を開けても風が入る」

「操作性が本当によい!
すぐ使えてストレスがない」

モニターアンケート (n=15)

Q スタイルシェードの快適度は?



VOICE

「涼しくなった」

「苦手なエアコンの
設定温度を高くできた」

「網戸のみで窓を全開にできる」

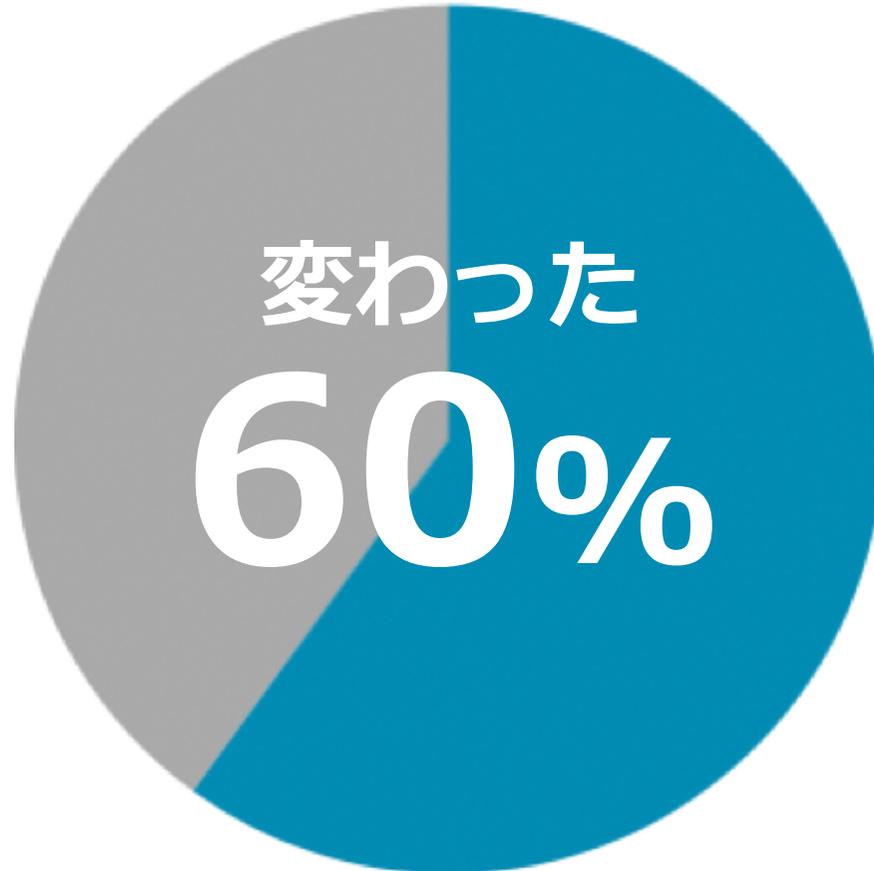
「一瞬で目隠しできて、
暮らしがラクになった」

「通行人の目が気にならなくなった」

「すだれや緑のカーテンを
使用時のストレスがない」

モニターアンケート (n=15)

Q 実証実験参加後、室内熱中症に対する意識は変わりましたか？



VOICE

その理由

「毎日測定することで意識が高まった」
「気をつけるようになった」
「外にいるときばかり気にしていたが、
室内で熱中症になる方が多いのが
わかる気がした」

今後注意したいこと

「日差しを遮る」
「エアコン・扇風機を上手に使う」

変わらなかった理由

「熊谷市に住んでいるので、
もともと意識が高かった」

モニター宅での実証実験コメント



モニターH様の
コメント

熱や光を遮るだけでなく、
プライバシーの面でも、安心感がありました。

操作がとてもラクで、デザインもシンプル。
たまたま家の外壁と同じ色だったので、
見た目がとてもすっきりしました。
シワやたるみもなく、気持ちがいいです。

実証実験に参加することで、温度・湿度に注意を払い、
自分の体調にも関心を向けるようになったことは
良かったです。

モニター宅での実証実験コメント



モニターT様の
コメント

スタイルシェード、とても気に入っています。
もう毎日使いたい。うちには高齢者が居て
エアコンが嫌いで切りたがるんです。
この暑さだとすぐに熱が上がってしまうので、
少しでもスタイルシェードを使って
外からの熱が遮断できれば助かります。

今まではカーテンだけで、
風通しを遮ってしまうので、
なかなか暑さ対策ができていなかったんですが、
スタイルシェードを付けたことによって
日差しもカットできて、風通しもよくなって、
すごく過ごしやすくなりました。



モニターI様の
コメント



小田嶋 俊 さん

熊谷市総務部職員課
暑さ対策プロジェクトチーム

室内熱中症対策のポイントの一つは、
室内の温度を上げないということ。そのためには、
日差しを窓の外側でカットすることが大切。
非常にわかりやすく具体的な対策です。

この室内熱中症対策の効果を、
実証実験によって、データで見える化できたため、
理論的でわかりやすい啓発が行えると考えています。

今回の実証実験を通して、室内熱中症について、
市民の皆さまに広く関心を持っていただく
大きな機会になると思います。

有識者のコメント



前 真之 先生

東京大学大学院
工学系研究科建築学専攻
准教授

今の窓はペアガラスが当たり前で、さらに、断熱性能が高いLow-Eガラスも普通になってきています。それにより部屋に入った太陽の熱がなかなか外に抜けず、室内にこもりやすくなってしまいます。

そのような状態で、カーテンで室内側を防いでも、1回入った熱は抜けず、カーテンが過熱されてしまっているため、とても暑くなる。

太陽の熱は、室内ではなく窓の外で防ぐことが大事。熱を室内に一切入れない、外側でちゃんと防ぐ工夫が最近の家ではより大事になっているのです。

有識者のコメント



三宅 康史 先生

帝京大学医学部附属病院
高度救命救急センター長/
帝京大学医学部
救急医学講座教授

地球温暖化の影響で、日本の夏は確実に毎年暑くなっています。最高気温も上がっているし、熱帯夜や猛暑日の数そのものも増えてきています。さらに、夏自体も長くなっており、暑さをどう対処するのが非常に大事になっています。

家の中にこもっていたとしても、家の中の温度自体が上がっていて、熱中症になる方も増えています。

大切なのは、室内の環境を涼しくすること、そして、適切な水分補給。また、子どもやお年寄りについては、まわりの人がきちんと見守り、ケアしてあげることが重要なポイントとなります。

暑くなる日は、



朝から窓の外側で日射を遮り、
エアコンを使用することで、室内の温度・
暑さ指数の上昇を抑えることができる。

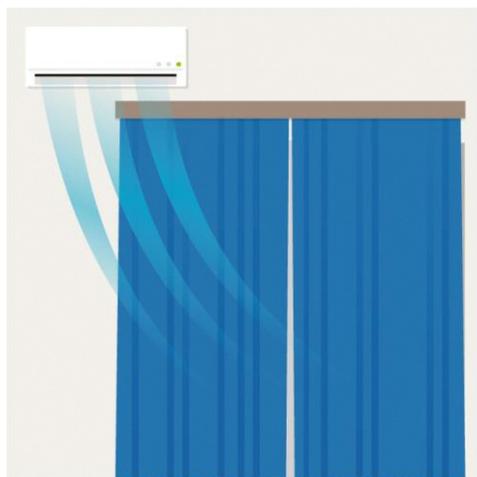


シェードを設置することで、
エアコンの消費電力を抑えることもできる。

これからの暮らし方

これまでの暮らし方

7~8月の
真夏の暑い時期

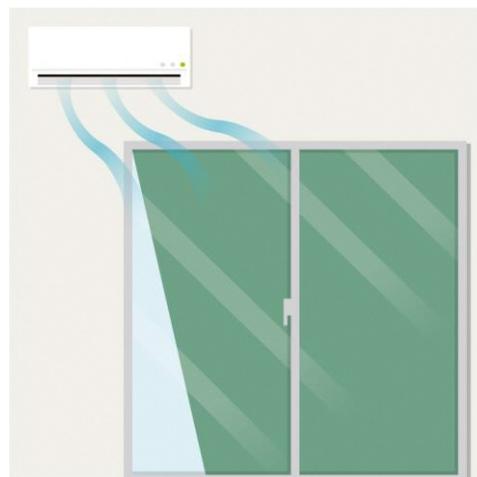


カーテンを閉め切って
エアコン「強運転」

部屋が暗くなり、
消費電力もかさむ暮らし

これからの暮らし方

7~8月の
真夏の暑い時期



シェードを閉めて
エアコン「省エネ運転」

6月・9月の
少し暑い時期



シェードを閉めて
エアコン「OFF」

部屋が暗くならず、
快適・健康で、省エネな暮らし

LIXILからのメッセージ

**近年、地球温暖化や気候変動の影響が
世界各地で顕在化しています。ここ日本でも、
記録的な猛暑や大型の台風などによる災害が深刻化し、
熱中症による被害も増大しています。**

**LIXILはコーポレート・レスポンシビリティ戦略のもと、
今回の実証実験の結果をはじめとしたさまざまな活動を
メディアやパートナーさまとともに情報を発信し、
室内熱中症について多くの皆さまに関心を持っていただき、
住まいで起こる事故を一つでも減らすことができるよう
継続して活動を推進していきます。**